

少年技師設計圖 (其の十二)

「ツエツペリン伯」號飛行船

ドイツのツエツペリン伯が、一九〇〇年頃から没頭した飛行船の建造は、不撓不屈の努力と共に目覚ましい發達を遂げた。伯が雄圖半にして没してから、遺志を繼いだ人々が立つて、ドイツ一般から全體で二百萬圓に達する零碎な寄附金を募り、一九二八年にツエツペリン會社の第百十七番目の作品として完成したのがこの飛行船である。

R一〇一號の悲惨な最後があつたから、此の飛行船はR一〇〇號に次ぐ世界第二位の大飛行船であるが、今迄飛行船史上に、ツエツペリン伯號ほど華々しい足跡を印した飛行船はない。世界一週の一乗りは勿論、數度の大西洋横斷、ヨーロッパ週航等、今迄に此の飛行船のなし遂げた業績は餘りに偉大である。

ツエツペリン伯號の大體の寸法と性能は

總浮力(從つて總重量) 八五噸

長さ 二三五米

最大直徑 三〇・五米

總馬力 二六五〇馬力

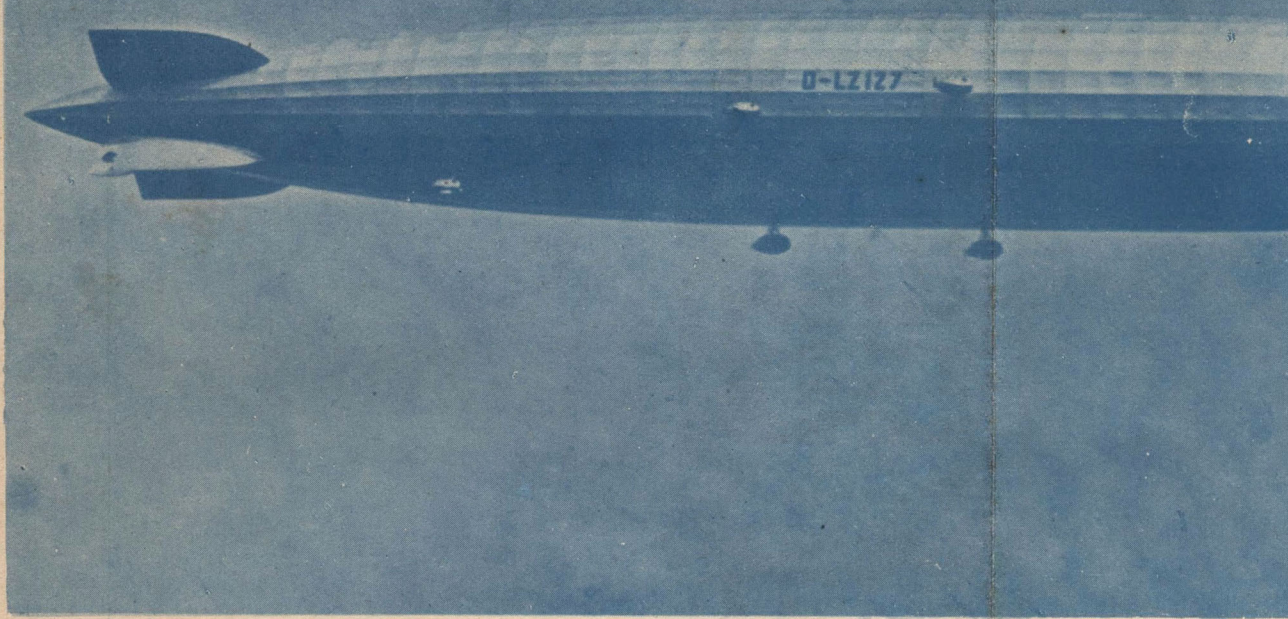
速度 一一七浬時

模型(1/200)の作り方

船體 縦通材は直徑二耗位の針金、隔壁は〇・五—一耗厚さの板金を用ひ、之を作るには初の其部の直徑よりも二耗位大きい圓板を



切抜き、それに其部の直徑よりも縦通材の直徑だけ小さい圓を書き、圓周を二八等分して各點に縦通材の直徑の小穴を二八ヶ明ける。然る後に先に書いた圓周に仕上げる。重量を軽くするために、隔壁の中央を適度に丸く切抜き環状のものとする方がよい。縦通材は隔壁の圓周に明けた小穴にはめ、その接合はハンダ付けにする。船體の兩端は木で削り出したものを取りつける。又全體を木で作つてもよい。その時には隔壁



は適當の薄板で、縦通材は厚さ一耗位、幅二三耗の細い角材を用ひ、隔壁に小さい釘で打ちつける。

尾翼 縦骨は〇、五耗位の板金、横骨は一耗位の針金を用ひ、船體と同じ要領で作る。又木を削り出して作つてもよい。圖面には一つものにしてあるが、後方の舵の部分は出來たら別個に作り、間に蝶番を入れて動くやうに取付けた方が面白い。

ゴンドラ これは木を削り出して作つた方がよからう。それに別に、古綿を布で包んで作つた緩衝枕をくつゝけ、仕上つたものに窓などを書き入れる。尾翼及びゴンドラの高さは寸法より大きく作つて、組立てる時、その寸法だけ、船體から出るやうに取り付ける。

發動機ゴンドラ これも木を削り出して作る。全部で五个あつて、圖に示すやうに船體の(五)及び(六)の隔壁に二個づつ、(八)の隔壁に一個一耗位の針金で作つた支柱で船體に取り付ける。兩方四個の發動機ゴンドラでは最上方の、後方の發動機ゴンドラでは中央の支柱が梯子になつてゐるから、出來たら梯子にする。後方のもの一個だけには緩衝枕をつける。

仕上 以上の骨組が出來上つたら、後は模型飛行機の翼の製作の要領で、布を張り、アルミニウム・ペイント(銀エナメル)を塗り、寫眞を見て文字などを書き入れる。